

からとやぐりやれ落のともうふちやあさやい落の成しむ
古謡よ云るがめく諏訪の御射山祭は穂あき作る穂屋を云
みのつりさて此と山祭の事わ神殿を落の穂をて作
そ此外人の家も祭のほと八落落の穂をて流るるとや
此祭は遠笠懸を射く進らる事と田村麻呂將軍は
祈願より始る由社の縁記はありとど此祭は八月又七月
廿日とも廿七日などともいへる諏訪社の祭年中七十五度
あるより夫木集金刺盛久とやねとくりやれまひり乃
一むとまり里ある枝れみとふ又慈鎮和尚落百首を
かりねとんちとめとあねのあるみと山よりれと六のあねを